

事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和5年12月28日

事業所名 児童発達支援センター ひばり園

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	7	0	・保育内容や、お子さんの人数、年齢等によって使用する部屋を分けている。	・基準を十分に満たしたスペースとなっており、利用定員との関係からも適切なスペースとなっています。
	2	職員の配置数は適切である	6	1	・会議等が入り、子どもの人数も多いと足りなく感じる時がある。	・配置基準は満たしているが、外勤や送迎などで職員数が少ない時は、足りていないと感じることがあるかも知れません。 ・安全面に配慮が必要な際に1対1対応を行いたいと思っても人員配置が十分出来ないと感じる時があります。
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	7	0	・廊下が広く、部屋も活動により分かれて使う事が出来、また清潔に保たれていて、とても過ごしやすいです。 ・トイレなど、バリアフリーになっており、とても利用しやすいようになっている。	・課題保育では、一緒に保育を行うお子さんの写真や保育者の写真を貼って見通しが持てるようにしたり保護者に保育目標を提示したりしています。1日の流れを写真等でスケジュール化してわかりやすくしています。 ・玄関や他の部屋も全てバリアフリーであり、車椅子での移動がしやすい設備となっています。食事の部屋やプレイルーム、グループ保育の部屋など視覚的にも構造化されており見通しを持って集中出来る安心安全な環境を提供しています。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	7	0	・子どもたちが安全に快適に過ごせるよう、掃除や除菌、安全点検を行っている。 (日々の業務で) ・毎日、子どもたちが降園した後、消毒まで徹底している。	・遊具の破損などの点検は、消毒の際確認しています。 ・毎日、子どもたちが降園した後、清掃、玩具1つずつの消毒を欠かさず行っています。
	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	7	0	・朝の会や、話し合える時間に職員全員で話し合ったり、意見を出し合ったりしている。 ・朝の会や降園後など全体で意見を出し合いながら取り組んでいる。	・PDCAサイクルに基づいて定期的に確認や評価を行って職員で振り返り、業務改善が必要な部分の意見を出し合い行っている。
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	7	0	・改善の返答をしっかりと、朝の会などでも保護者に直接説明し、保育などにもしっかりと、取り入れられている。	・評価表以外にも親の会で定期的に意見や要望を把握する機会を設けていただき、保護者の意向を把握して業務改善につなげている。

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
業務改善	7 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	7	0	・評価をホームページに公開し、誰でも見られるようにしている。	・評価の結果を、昨年度より個別に配布している。ホームページ等で公開している。
	8 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	7	0	・外部の相談員さん、幼・保育園の先生、他施設の専門員の方等がひばり園に来て、見学や勉強している。 ・外部から研修で来て頂いた際のアンケート等から気づきを業務改善につなげています。	・第三者評価は行っていないが、県内の保育コーディネーターや、SV養成研修の研修場所であるため、研修後、評価を頂いたり、アンケートを記載していただいたりして、業務改善に生かしている。
	9 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	7	0	・月1回研修を行い、職員で保育内容の確認や特性の理解を行う。 ・毎月1回自主研修を行い、保育士同士で学んでいる。 ・月1回次の保育内容を全員で話し合ったり、伝達講習等もその都度行っている。 ・必要な保育技術などを学べる研修に積極的に参加できる環境下にある。上司から紹介がある。	・毎月職員研修を行い、発達段階や障がい特性の理解について学んだり、発達段階に応じた保育内容の検討を行ったりしている。職員一人ひとりが資質向上に意欲を持って取り組めるように研修の機会を確保している。
適切な	10 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	7	0	・必ずアセスメントをしてから、保護者や子どもの保育、家での過ごし方などに添って、どのような課題が適切か話し合い作成している。	・お子さんと保護者のニーズを聞き取り、的確に把握し分析したうえで、願いやニーズを支援目標に適切に設定しお子さんの状況に合わせた支援内容で取り組むように会議で検討・協議している。
	11 子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	7	0		・標準化されたアセスメントツールとして遠城寺式・乳幼児発達検査表等を使用し、一人ひとりの状況を把握して支援に生かしている。
	12 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	7	0	・子どもの今の状況や、これからの課題、保護者の思いなどを項目に分けられ、目標を立て、どのように成長して欲しいか、きちんと設定されている。	・支援計画書はガイドラインで示す支援内容にそって項目から選択し、興味を持って目標達成が可能であり、日常生活場面や集団生活において必要である取り組みやすい支援内容となるように設定している。
	13 児童発達支援計画に沿った支援が行われている	7	0	・職員全員が目標や支援方法を把握して支援にあたっている。 ・保護者と話し合いながら、他の職員とも連携して支援が行えている。	・児童発達支援計画書に基づいた支援を行っており、目標や支援内容を職員全員で把握し、お子さんの状況に合わせた支援を行っています。
	14 活動プログラムの立案をチームで行っている	7	0	・その子どもたちに合った立案を入れる保育者間で話し合い、行っている。	・職員全員で活動のプログラムを協議し、それぞれのお子さんが意欲的に取り組み、達成感が得られるように立案しています。内容がマンネリ化したり偏ったりしないように定期的に見直し改善を行っています。

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
支援の提供	15 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	7	0	・同じ保育ではなく、前から少し上のレベルに設定したり+α何かをつけて必ず変化があるように工夫している。	・保育計画・月間計画に基づいて行い、状況に応じて見直し、内容の変更も行っている。 ・計画は立案しているが、子どもの状態に応じて柔軟に変更できるようにしている。
	16 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	7	0	・保育や生活面だけではなく集団活動の中での課題を立て取り組んでいる。	・個々に合わせた基本的な生活習慣の確立や、集団活動を通して、社会性やコミュニケーション方法等のスキルを身につけられるように計画書を作成しています。
	17 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	7	0	・職員間で打合せを行い、より質の高い保育を目指しています。 ・朝の会で必ず、その日の打ち合わせや保育内容、人数を確認する。 ・役割や内容だけではなく、目的を持って支援することが出来ている。	・毎日、朝の職員会議で全員の職員で必ず打合せを行い、役割分担や職員配置、支援の内容、登園するお子さんの特性や配慮する点等について行動を予測しながら確認を行っている。
	18 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	7	0	・振り返りを行い、次の支援方法について話しています。 ・毎回振り返りで良かった支援を共感できたり、気づきがあります。 ・気付いた点を話し合い、次の活動や今後どうしていったらいいか共有している。	・降園後に支援の振り返りを行い、職員全員の関わりが一貫した支援になるように共有している。
	19 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	7	0	・記録をしっかりと取り、改善方法や良かった対応など、他の職員と共有し、改善につなげている。	・ケース記録を記載する中で、それぞれのお子さんへの支援を振り返り、支援方法の見直し等や助言などを行い共有している。
20 定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	7	0	・モニタリングや保護者の困りなどを聞き取り、見直しすることが出来ている。	・定期的にモニタリングを行い、支援目標や支援内容が現状に沿っているか職員全員で協議し、見直しや改善が必要な際は行っている。	
21 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	7	0		・日頃の状況を十分把握出来ている担当保育士と、児発管が参画するようにしている。保育所等訪問を実施している場合は、出来るだけ訪問者も参画するようにしている。	
22 母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	7	0		・相談員や他事業所とは連携しながら行っている。保健師さんとの連携が少ないため今後の課題である。	

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
関係機関や保護者との連携	23 (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	7	0	・他事業所とも担当者会議を持ち、その子についての情報提供を行っている。 ・まだ保育園に通ったことのない子どもたちと地域の保育園と連携し、支援を行うなどしている。	・入園前に必ず、主治医からの意見や配慮する点などを確認するようにしている。担当者会議等において他事業所や訪問さんとも連携して支援を行っている。
	24 (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	7	0	・緊急マニュアルを作成し、シミュレーション訓練等で外来・主治医とも連携している。 ・何か気になることがあれば、主治医の先生やリハビリの職員と連携し、解決出来るように努めている。	・当法人の主治医・リハビリスタッフや看護師等とコミュニケーションを図り情報共有を行い連携している。
	25 移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	7	0	・ひばり園で取り組んでいることや逆に通っている保育園や幼稚園での取り組みを共有し、同じ取り組みをすることもある。	・移行支援として保育所等とは担当者会議や保育所等訪問、関係機関連携で相互理解を図っている。
	26 移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	7	0		・移行先の小学校や特別支援学校とは、保育要録等や担当者会議、関係機関連携などで直接お会いして情報共有と相互理解を図っている。
	27 他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	7	0		・今年度も県内の通所支援事業所基礎研修の講師をし、連携を行った。市が開催する研修会にも参加し、連携する事が出来た。
	28 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	7	0	・毎年交流保育を行い、お互いの学びの場となっています。 ・毎年、地域の保育所と交流保育を行い、一緒に遊ぶ経験をしている。	・希望者を募ったり、事業所から声かけをしたりして、近隣にある公立保育所に訪問し、交流している。参加者からは、方向性がイメージ出来たし、直接質問も出来て良かったと感想あり。
	29 (自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	7	0	・出来る範囲で毎回、職員が出席し、知識を高めている。 ・別府市内や、大分市である研修や会議に出来るだけ参加できるよう努めている。	・自立支援協議会の子ども支援部会の、会議や研修会に出来る限り参加するようにしている。
30 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	7	0		・保護者通園であるため、日頃よりお子さんの状況や行動の理由、対応について共通理解を行い、家庭と連携している。単独通園の年長児に対しては送迎の際に直接お伝えし、共通理解を持っている。	

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
	31 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	7	0	<ul style="list-style-type: none"> ・年長児には10セッション、他の保護者には3セッションのペアレント・トレーニングを実施している。 ・ロールプレイなども交えながら保護者の悩みや困りに付け、保護者が移行先の園や学校へ子どもの支援方法を伝えることができるよう親講座の際にレジュメを作成し理解しやすいように進めている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度同様、年長保護者にペアレント・トレーニング10セッション、その他の保護者には要約した3セッションを行った。年中保護者にはペアレント・プログラム7セッションを実施した。支援方法を身に付け、保護者が移行先の園や学校へ子どもの支援方法を伝えることができるよう親講座の際にレジュメを作成し理解しやすいように進めている。
	32 運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	7	0		<ul style="list-style-type: none"> ・入園前に十分時間をとって丁寧に説明を行っている。運営規程及び重要事項説明書を保護者が見る廊下にも掲示し、いつでも確認できるようにしている。
	33 児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	7	0	<ul style="list-style-type: none"> ・説明を必ず行い、その後同意を得てからサインをもらうようにしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・作成した児童発達支援計画の目標設定や支援内容の説明を十分に行い、意見や質問がないかを確認し、同意を得ている。
	34 定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	7	0	<ul style="list-style-type: none"> ・相談・面談希望を常にとって申し込みがあれば、近日常に必ず行うようにして耳を傾けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的に声をかけたり保護者が発信しやすいように相談希望表を掲示している。出来るだけ早期に対応し、安心して子育てが出来るようにしている。
	35 父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	7	0	<ul style="list-style-type: none"> ・月に1回、親の会を開催している。 ・保護者同士の会談を設け、その間は子どもたちを分離で保育者が見るようにしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的に開催出来るように親の会と日程調整を行い連携している。 ・活動内容の要望があった場合は実施出来るようにバックアップし、保護者同士の連携がスムーズに行えるように支援している。
保護者への説明責任等	36 子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	7	0	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者から申し入れがあれば、次の日の朝の会で職員間で周知して支援の統一化を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個別の相談については、相談申し込み書を掲示しており、対応している。
	37 定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	7	0	<ul style="list-style-type: none"> ・園だよりを月1回発行し、行事等を写真で掲載している。また行事等の詳しい内容は掲示版でお知らせし、保護者に周知してもらうようにしている。 ・子どもたちの活動が始まる前に保護者の朝の会を設け、お知らせを随時行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・月に1回、定期的に園だよりを発行し、行事やお知らせを保護者に対して発信している。

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
	38 個人情報の取扱いに十分注意している	7	0		・個人情報を絶対に漏洩しないように管理、周知している。また園だより等で写真の掲載を行う際は個人情報同意書に基づいて同意が得られている方を確認して掲載している。行事の際の撮影に関してもSNSへの掲載等は控えて頂くように毎回お願いをし、取り扱いについては十分注意している。
	39 障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	7	0	・情報が入れば個人情報やモラルに十分注意して共有、伝達することができる。	・お子さんの得意なことを意思の疎通や伝達手段のツールとして活用し、伝わった喜びや理解出来た安心感が得られるようにしている。 ・日常的によく使用する手話などを使って意思の疎通や情報伝達を行っている。
	40 事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	7	0	・例年であれば秋祭り等があるが、現在は感染症対策のため実施出来ていない。 ・月に1回地域ボランティア団体さん呼び、交流を図っている。	・今年度も秋祭りが中止となり地域住民の方をご招待することは出来なかったが、法人の感染予防対策が緩和されたら、行事に来ていただきたいと考えている。ボランティアさんには毎月定期で来ていただいております。積極的に受け入れている。
非常時等の対応	41 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	7	0	・月1の避難訓練や緊急搬送までの流れ等のシュミレーションも必要に応じて行っている。	・可能性のある、あらゆる場面を想定して計画・訓練を実施している。職員がスムーズに行動出来るようにシュミレーションも行っている。
	42 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	7	0	・月に1回、センター内で火災・地震・火山噴火に備えた避難訓練を行っている。 ・月に一度必ず避難訓練の実施を行っている。	・発生場所によって避難経路も変わるため、落ち着いて行動が出来、全員が安全に避難、対応出来るように実施している。
	43 事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	7	0		・入園前に、保護者の方への聞き取りやフェイスシートの記載をして頂き、状況を事前に確認している。
	44 食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	7	0	・医師の指示はもちろん、栄養士の方から聞き取りをしてもらい、専門職として、それぞれの役割が果たされるように努めています。	・入園時にアレルギー調査を実施し、保護者に確認し、保護者からの意見や医師の指示に基づいて対応している。栄養士とも連携している。
	45 ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	7	0	・けが等の事故が起こった際には、インシデント報告を行い、職員間で対策を考え周知している。 ・委員会等で必ずあげ、周知対応するようにしている。	・積極的に記載するようにし、改善策を協議している。

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
46		虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	7	0	・研修会に積極的に参加し、伝達講習をして、職員間で共有している。 ・虐待についての研修がある際は、リモート等でも積極的に参加するようにしている。	・人権や虐待についての研修会には積極的に参加し、伝達講習により周知しており、正しい知識で適切な対応を行うようにしている。
47		どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	7	0		・組織的に委員会を設置して行っている。保護者やお子さんに事前に十分な説明を行い、同意を頂き支援計画書にも記載している。定期的に見直し、やむを得ず必要な状況なのかを検討している。

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は事業所全体で行った自己評価です。